

◆◆◆◆◆\*\*\*\*\*◆◆◆◆◆  
第13期サステナビリティ経営研究会 第1回研究会プログラム報告

《テーマ》 『ISO14001の改訂と事業戦略への活用』

◆◆◆◆◆\*\*\*\*\*◆◆◆◆◆  
《講演》 「ISO14001の改訂と事業戦略への活用」

合同会社グリーンフューチャーズ 社長 吉田敬史氏

2015年改定の経緯と概要について説明があり、FIDSの要求事項や重要な概念について説明された。詳細は配布資料にあるので参照されたい。今回の改訂について、大きな変更として改正前は「手順の要求」であったものが、この改正により「プロセスの要求」に変わったことといえる。プロセスアプローチの概念が導入され、手順への要求が撤廃された（スライド6）。手順よりもプロセスの検証を重視することとなる。手順については、不記載が認められるようになった。順に改正事項の重要点について解説していく。

「6.1.4 取り組みの計画」（スライド11）について、「これらの取り組みを計画するとき、組織は、選択し、財務上、運用上、および事業上の要求事項を考慮する」とされた。これは計画を考えるときに、評価を考えて計画を作らなくてはならないということであり、また現実的にヒト・モノ・カネといった経営資源があるかということを要求している。現実的な見通しをしっかりと持つように要求しているのである。これは「4.1/4.2 および6.1の要求事項の意図」（スライド25）にあるとおり、経営的な視点で認識することを求めていることと共通する。

「EMSは組織本来の業務とは別の異なる仕組みとして、規格ごとに個別に構築、運用するケースが見られる」ことがあったが（スライド30）、本来EMSは組織のMS（マネジメントシステム）の中に組み込まれ、統合一体化されて初めて有効に機能するものである。

EMSが最低限、社内の組織とリンク（統合）しているかが重要である。EMSを事業プロセスと統合することが重要なのは、もしも何かあったときに、EMSだけでは対応が不可能であり、本体の組織の中で動く必要があるからである。（文責：環境管理会計研究所）

《講演》「サプライチェーンにおける MFCA の可能性と ISO14052 の審議状況」

神戸大学大学院経営学研究科 教授 國部克彦

サプライチェーンにおける MFCA の可能性と ISO14052 の審議状況について紹介する。近年、環境経営について、単一の企業のみならずサプライチェーン全体への導入を提唱し、ライフサイクル志向からサプライチェーンの一体化が考えられる。サプライチェーンでの環境経営を進めるため、サプライチェーンにおけるサプライヤーとバイヤー関係に注目する。例えば、経済的取引関係から持続可能な取引関係へ発展させること、つまり経済目標だけでなく環境目標を共有したり、環境保全の協力で利益を共有するなどである。

また、MFCA を通じてサプライヤーとバイヤーの新しい協力関係の構築が可能であり、資源生産性向上を通じての共通価値を創造し、情報共有による環境改善をする可能性が考えられる。現在、ISO14052「マテリアルフローコスト会計：サプライチェーンにおける導入実施ガイダンス」を検討中である。

サプライチェーンで考えることの利点は、廃棄物発生の原因はサプライチェーンに起因するのと認識したうえで、製品・サービスを購入する顧客と協力し、削減していく方法を見つけることである。

本研究は、平成 20 年度から平成 22 年度までの 3 年間、経済産業省のサプライチェーン省資源化連携促進事業として採用された 58 のプロジェクトを分析対象とし、平成 12 年度から平成 21 年度までに、経済産業省、中小企業基盤整備機構、東北経済産業局等が実施した MFCA モデル事業等で公募し、採択された事例を対象にし、総事例数 77 件から分析を行った。

負の製品の割合（ロス率）について、企業単体では全体の 8 割が 30%未満であったのに対し、サプライチェーンでの導入事例ではロス率が 50%以上もある企業群全体の 24%を占めるほど高率を示した。つまり MFCA をサプライチェーンで展開する余地があることを示したのである。単独企業ではほとんどロスが検知されなかった電機機器製造においても高いロス率が測定された。企業単体では管理不可能であったロスが、サプライチェーンで MFCA を展開することで管理可能になり、さらに、サプライチェーンの事例の方が実行しやすい改善策が多い傾向にある。

ISO14052 の目的は企業間どのように協力するのかについて、ガイダンスとして公表する。

ISO14052 の審議状況について、今年 5 月に、コミッティー・ドラフトは承認され、9 月に第 3 回会合はインドで開催される予定であり、2016 年に完成版を発行する予定である。サプライチェーンの構成企業が協力して、省資源化、低炭素化に努力できる仕組みの開発と制度的支援の可能性を追求し、また、サプライチェーンへの MFCA 導入事例の蓄積による技術開発や改訂版 ISO14001、統合報告などの新しい環境経営手法と統合的に利用して、持続可能な利益獲得の手段へ発展させるものになることを期待されている。